

日光の桜回遊の活用と保全について

～高田家のしだれ桜の現状と課題～

金田 正明*・親泊 素子**

はじめに

日光市は世界遺産や国立公園を有する知名度の高い観光地の一つとして挙げられているが、2013年からは日光市の観光をさらに推進するために「日光桜回遊」のイベントをスタートさせた。これは日光門前町に店舗を構える店主らにより組織された「日光桜遊会」が主宰するもので、当初は老舗名店会が中心になって進められ、参加店舗も67店舗だったが、今年の2019年には74店舗にまで大きく広がっている⁽¹⁾。

この「日光桜回遊」のイベントとは、世界遺産二社一寺周辺や風情ある日光市内の街中で、今まで知られてこなかった桜の名所を散策してもらい、同時に日光を代表するグルメや物産品も紹介しながら「見る、食べる、買う」を観光客に楽しんでもらおうとする企画である。また、首都圏の桜の季節から少しずれた時期からゴールデンウィーク前の間に開催することで、多くの観光客を引き付ける効果も狙っている。

この「日光桜回遊」に選ばれた27カ所の桜の多くは樹齢200年を超すしだれ桜の古木が多く、中には国の天然記念物に指定されている日光山輪王寺の「金剛桜」や日光市の天然記念物に指定されている高田家所有の「稲荷町のシダレ桜」も含まれる⁽²⁾。輪王寺の「金剛桜」は推定樹齢500年、「高田家のしだれ桜」は370年～380年で、これ

らの桜が春に満開の花を咲かせる姿は訪れる観光客を圧倒するような美しさがある。

現在、この「日光桜回遊」の桜に選ばれている27カ所のうち、個人所有と思われる桜は9カ所にあり、その中で岸野家は3本のしだれ桜が選ばれている。このイベントも今年の2019年で7年目を迎え、観光客の数も毎年増加しているが、一方でこれらの桜に関して様々な問題が発生している。例えば所有者の後継者問題、桜の植生管理、財政問題、そして観光客による桜の生育環境に及ぼす影響などである。これらの問題をそのまま放置すれば、せっかく始めた日光の「桜回遊」のイベントも、その存続が危ぶまれるだけではなく、貴重な桜の生存にもかかわってくる。そこで本研究は個人所有の桜の中でも、日光市の天然記念物に指定されている高田家の「稲荷町のシダレ桜」を事例にとりあげ、これらの課題を整理するとともに、この桜を後世にまで残して行けるような新たな手法や枠組みを模索し、ひいては、日光の



写真1 高田家のしだれ桜
(2015年4月12日 高田雄康氏撮影)

2019年11月30日受付

* 江戸川大学 経済社会学科教授 食料経済学

** 国立公園研究所客員教授 環境政治学

「桜回遊」のイベントがこれからも健全な形で公開、管理し続けられるよう提言するものである。

表1は「桜回遊」のパンフレットにリストされている27カ所の桜をまとめたものである。

「桜回遊」のパンフレットには、「いろは」の順番で地図に桜のマークが書き込まれており、観光客は好きな桜を見に行けるようになっている（写真2, 3参照）。特に岸野家、神山家、布施家、星野家の一带と高田家は近いので、観光客にとって

表1 「桜回遊」のパンフレットにリストされている27カ所の桜

		名前	種類	学名 / 備考
1	い	岸野家のしだれ桜	イトザクラ	<i>C.spachiana</i> 'Itosakura' Siebold
2	ろ	神山家の桜	ヤマザクラ	<i>C. jammasakura</i>
3	は	岸野家のしだれ桜	イトザクラ	推定樹齢 500 年
4	に	岸野家のしだれ桜	イトザクラ	推定樹齢 500 年
5	ほ	布施家のしだれ桜	イトザクラ	
6	へ	星野家のしだれ桜	イトザクラ	
7	と	みゆき公園の桜	ソメイヨシノ	<i>Cerasus x yedoensis</i> 'somei-yoshino'
8	ち	後藤家の桜	エドヒガン	<i>C.spachiana</i>
9	り	龍蔵寺墓地の桜	エドヒガン	
10	ぬ	神ノ主山の桜	ヤマザクラ・カスミザクラ	
11	る	石屋町の桜	エドヒガン	
12	を	松原町志渡淵川添いの桜	オオヤマザクラ	
13	わ	東武日光駅の桜	イトザクラ (ベニシダレ)	
14	か	吉新家の桜	ヤエベニシダレ・オカメ	<i>C.spachiana</i> 'Plene-rosea', <i>Cerasus</i> 'Okame'
15	よ	龍蔵寺の桜	エドヒガン	
16	た	稲垣家の桜	イトザクラ	稲荷神社の近くにある。
17	れ	鳴虫山・大谷川の山桜	ヤマザクラ・オオヤマザクラ, カスミザクラ	
18	そ	高田家のしだれ桜	イトザクラ	推定樹齢 370年~380年, 市の天然記念物 *1
19	つ	虚空蔵尊のしだれ桜	イトザクラ	推定樹齢 350 年
20	ね	三ツ山家の桜	ヤマザクラ	
21	な	観音寺のしだれ桜	イトザクラ	
22	ら	観音寺の桜	オオヤマザクラ	
23	む	旧日光市庁舎の桜	ヤマザクラ・エドヒガン	
24	う	志渡淵川の桜	ヤマザクラ・オオシマザクラ	
25	る	上鉢石の桜	エドヒガン	
26	の	美術館のしだれ桜	イトザクラ	
27	お	輪王寺金剛桜	コンゴウザクラ	推定樹齢 500 年, 国の天然記念物

注：* 1日光市の天然記念物指定の高田家の桜の名称は、「稲荷町のシダレ桜」

出典：日光桜遊会発行「桜回遊」パンフレット 2019年版より作成



写真2 「桜回遊」のパフレットの一部分
(2019年4月17日 著者撮影)



写真3 「桜回遊」のパフレットの一部分
(2019年4月17日 著者撮影)

最も廻りやすいルートとなっている。近くに郷土センターや日光老舗の店が立ち並び、この桜回遊の中でも中心の地点となっている。

1. 高田家のイトザクラの存在の背景

高田家の桜の推定樹齢は370年位と言われているが、高田家のすぐ近くにある「虚空蔵尊のしだれ桜」は推定樹齢350年といわれている。この20年のズレについての説明は今後更なる調査が必要であるが、高田家もかつては虚空蔵尊の境内にあったと言われ、大杉神社の案内板によると、この虚空蔵尊は1640年に神橋右岸の磐裂神（虚空蔵尊）を分祀し、東町六ヶ町の住民の鎮守として祀られたといわれ、その時に境内に桜を植樹したとも考えられる。また、「虚空蔵尊のしだれ桜」の推定樹齢から、1662年に稲荷川の大洪水⁽³⁾が起こった後に街の復興のためにその一帯に桜が植栽され、その中の何本かが今まで残ってきた可能性もある。なぜなら、高田家の近くの江川家にも同じような桜の古木が残されていたからである。江戸時代には桜を治水工事の目的で利用したと言われ、桜の木を植えると人々がお花見のために来るようになり、自然と地面が固められ、それが天然の堤防の役割を果たすようになるといわれ

た⁽⁴⁾。現在でも多くの桜並木が川沿いの土手に植えられているのを見かけるのはその理由のためである。この一帯はその後何度も稲荷川と大谷川の洪水や町の火災に見舞われているために、どの時代に何の目的で桜が植樹されたのかは更なる調査研究が必要であるが、この高田家、虚空蔵尊のしだれ桜だけでなく、推定樹齢が200年以上の「日光桜回遊」のどの桜も幾多の自然災害を生き抜いてきたわけで、それらの桜の生命力は人の管理の力をこえた神がかったものさえ感じ、かつ圧倒的な存在感を示している。

2. 高田家のしだれ桜

高田家のしだれ桜は糸をたらすような花の姿をしていることから、別名でイトザクラともよばれている。エドヒガンの変種とも言われ、学名は *Cerasus spachiana* 'itosakura' Siebold (バラ科のサクラ属) である⁽⁵⁾。イトザクラの原産地は日本で、開花時期は大体3月下旬から4月であるが、その年の気温によっても異なるため、日光の「桜回遊」のイベント開催の時期も年によって異なっている。花の色は白、ピンク、赤があり、種類としては、ヤエベニシダレ、キヨスミシダレ、ベニシダレ等がある。我々が身近によく見る桜はソメ



写真4 雪に覆われた高田家のしだれ桜
(2015年4月8日 高田雄康氏撮影)

イヨシノで、その桜は江戸時代後期に開発された種で、昭和の高度経済成長期に全国に植えられ広がったものである。しかしソメイヨシノは成長が早い分老化も早いため、寿命も短く老木が少ないと言われている。一方で、イトザクラは足利義光の時代にはすでに存在していた記録もあり、日本の三大滝桜の一つである三春滝桜の樹齢は1,000年以上といわれ、全国にはかなりの樹齢のしだれ桜が存在する⁽⁶⁾。したがって日光の桜回遊にリストされているしだれ桜の多くも樹齢200年以上の古木ばかりである。

現在、高田家のしだれ桜は、ご家族4人で維持管理を続けている。以下に、桜の維持管理に関して、日光ユネスコ協会会長も兼務されている高田雄康さんからの聞き取りをまとめてみた。

2-1 年間を通じての管理

お兄様を中心に家族で桜の木を守っている高田家の苦勞の一つが落ち葉の清掃である。例年8月16日(旧盆)頃から葉が散り始め、9月中頃から10月まで、毎日ゴミ袋3つ分の落ち葉を片付けなければならない。高田邸の屋根の上にも桜の枝が垂れているので、そこに積もった落ち葉を(葉が乾いたら)、屋根に登って送風機で地面に落とさなければならない。樋に葉がつまるのを防ぐため、年に約3回行う。また、春先、4月頃、桜の花びら(顎)やさくらんぼの実の後片づけを2、3週間行う。落ち葉は堆肥化した後、桜の木に隣

接する畑に堆肥として使う。畑の下に桜の根が伸びており、堆肥化した落ち葉が桜の木の栄養になっている。

2-2 定期的な専門業者による維持管理

高田さんが専門業者に依頼して、2004年～2017年の間に計5回行った手入れの記録が写真に残されている。その一部を用いながら維持管理の難しさを説明してみよう。

2-2-1 2004年2月の手入れ

この頃、桜の木の元気がなくなってきたので、樹木医の指導の下で造園業者による桜の木の修繕を行った。具体的には、枯れ枝を取り除き、腐敗した箇所はコンクリートで埋めた。この時は、大田原の樹木医と組んでいる大田原森林組合に所属する人に手入れを依頼し、業者は約1週間日光に宿泊して、桜の木の手入れを行った。腐敗処理作業も含めて、この時は約100万円の費用がかかった(写真5, 6, 7参照)。



写真5 剪定作業
(2004年2月29日 高田雄康氏撮影)



写真6 腐敗した枝
(2004年2月29日 高田雄康氏撮影)

2-2-2 2013年4月の手入れ

桜の花が終わりかけた時期に枯れ枝の除去に加え、幹の腐敗処理も行った。この時は、高田邸の庭木の手入れを頼んでいる鹿沼の造園業者に依頼したが、この造園業者と組んだ樹木医は、コンクリートを用いての腐敗処理ではなく、ガスバーナーで腐敗した箇所を炙って炭化させる処置を勧めた。今現在、この処置を施した枝や幹は、一つの枝を除いて腐敗は進行していない。更に、金ブラシを用いて幹や枝をブラッシングして磨き、桜の木に寄生するコケや植物を取り除いた。この処置の後、幹や枝が茶色くなり、桜の木全体が元気を取り戻し、新しい枝が生えてきた。費用は全部で約60万円～70万円かかったそうである（写真8, 9, 10参照）。



写真7 コンクリートを使った腐敗処理
(2019年11月5日 著者撮影)



写真8 木の状態の診断
(2013年4月18日 高田雄康氏撮影)



写真9 寄生植物や苔が生えた状態
(2013年4月18日 高田雄康氏撮影)



写真10 ブラッシングにより綺麗になった状態
(2013年4月26日 高田雄康氏撮影)

2-2-3 2014年5月～2015年2月の手入れ

この時は、主に桜の木周辺の環境整備を専門業者に依頼した。桜の木の周辺を囲っていた生垣を取り除いて石垣に変え、その上に武家屋敷調の塀を作った。支え枝の補強も行った。木の周辺に空気管（プラスチック製）を埋め、根に空気がいきわたるようにした。空気管の中には肥料も入れ、根が栄養を吸収しやすいようにした。

高田さんは、この環境整備により「高田家のしだれ桜の品格が上がった」と笑顔で答えてくれた。この環境整備と日光市が行った道路の環境整備で分かったことは、道路側には、桜の木の細かな根はあるものの太い根は伸びていないことである。今回の環境整備では、約700万円使ったと話してくれた（写真11～写真17参照）。



写真11 桜の木周辺の他木の除去作業
(2014年5月27日 高田雄康氏撮影)



写真12 桜の木周辺の石の撤去作業
(2014年5月27日 高田雄康氏撮影)



写真13 石垣を組む作業
(2014年5月30日 高田雄康氏撮影)



写真 14 空気管の敷設作業
(2014年5月30日 高田雄康氏撮影)



写真 15 石垣作りの仕上げ段階
(2014年6月2日 高田雄康氏撮影)



写真 16 塀の設置作業
(2014年11月22日 高田雄康氏撮影)



写真 17 塀の設置作業
(2015年3月15日 高田雄康氏撮影)



写真 18 高圧洗浄機による幹の洗浄作業
(2017年4月1日 高田雄康氏撮影)



写真 19 空気管の増設作業
(2017年4月1日 高田雄康氏撮影)

2-2-4 2017年4月の手入れ

この時は、高圧洗浄機で幹や枝を洗い、木に栄養と酸素を供給するための空気管を木の周辺に増やした(写真18, 19参照)。

2003年から行った桜の木の維持管理と桜の木周辺の環境整備で、合わせて1,000万円近くを費やした。この他に栃木に暮らす高田さんの友人が15,6年前から桜の木の消毒を一人でやってくれているが、高所作業車は使わないので高いところの枝まで消毒薬が届かない。その友人も高齢である。出来れば、業者に頼んで年に1回、高所から消毒薬を桜の木に散布したいが、それにはお金がかかる。「先祖代々守ってきた高田家のしだれ桜を見に来てくれる人に喜んでもらいたい。そして、自分も桜の花を観て楽しみたい」との思いから、高田さんは私費で所有する桜の木の維持管理を続けている。

3. 高田家の現状と課題

3-1 後継者問題と将来の担い手

高田家ではご家族の高齢化も進んでおり、しだれ桜の日常的な手入れを行うこともきつくなってきている。特に8月の半ばから毎日ゴミ袋3つ分出る落ち葉の清掃作業は大変で、できれば日光やその周辺に在住している人で、「日光桜回遊」の桜の木を守ることに関心を持っている人達が清掃作業を手伝ってくれると有難いと考えている。ま

た、将来は高田家の屋敷、土地、そして桜の木を維持管理していくための「法人化」を考える時期がきているとも話されていた。桜の木を守る仕組みをどのように組織化できるのか、そして桜の木を次の世代にどのように繋げていけるのかが大きな課題である。近隣の人達も桜の花を見には来るが、維持管理の話にまで踏み込んで関心を示すことはないようだ。加えて過疎化、高齢化も続いており、近隣も空き家が増え、人も少なくなっているそうである。

3-2 維持管理費用の財源確保

高田家のしだれ桜は10年に一度手入れをしないと木が弱ってしまうので、定期的に専門業者による維持管理が必要だというのが、高田さん個人での維持管理費用の捻出も限界にきているようである。特に専門業者に支払う費用は高額で、今までのところは知人の好意に頼って手伝ってもらってきたが、その知人も高齢となり、今までのような形で専門的な作業を依頼できなくなってきている。また、「高田家の桜」は「稲荷町のシダレ桜」として市の天然記念物に指定されているが、行政からの補助金はない。2006年3月に日光市、今市市、足尾町、藤原町、栗山村の合併が行われるまでは年に1万5千円程度の補助金が出ていたが、合併後には市の財政も厳しくなり補助金もなくなった。また、桜の木のライトアップを30年近く前から行っており、約22年前には、桜の木

に合った風情にするために和風の家も新築した。その際にはライトの数も増やした。ライトアップは暗くなってから4カ所から照らすようにしているが、その電気料金も個人負担である。こういった観光客へのサービスも財政的に高田さんの負担を増やす結果となっている。

3-3 観光客によるマナーの問題

また、この「高田家の桜」は家の外からでも十分その美しさを楽しむことができるのだが、心無い観光客は桜が根を張っている高田さんの本宅内部にまで入ってきて写真を撮ったりするそうである。観光客の踏圧で土が硬くなると、地中への酸素供給が少なくなり、その結果、桜の根が呼吸しにくくなると根が衰弱してしまう。そのために空気を地中に埋め込むことで空気がとおるようにしているが、この空気を敷設の経費や追加の費用も負担している。また、桜の木の脇は生活道路となっており、車や人の往来もあるため、事故が起らないよう気をつけなければならないのだが、写真撮影に夢中になって車に気付かなかつたりする観光客もいるのだという。大勢の観光客が押し寄せることによってご近所の日常が邪魔されたり、また交通の邪魔になったり、或いは逆に観光客の安全にも気を配らなければならないが、桜の所有者としての高田さんの心配のタネはつきない。

3-4 他の景観整備の必要性

高田家の向かいには電柱が立っており、何本もの電線が通っている。それは桜の木にも一部引っ掛かっており、桜の成長を妨げるだけではなく、景観的にも桜の風情を阻害するものでもある。その通りの電柱の地中化が実現すれば、地上の景観のマイナス要素は取り除かれるが、一方では地中化することで、今度は桜の根を傷つける問題がでてくる。どのような形がいいのかを判断するのは非常に難しい。

4. 提言

4-1 桜の維持管理の人手不足について

高田家の近隣には、日光市立日光小学校と日光市立東中学校がある。2018年度の児童数は、それぞれ222人と190人である。高田家までは、日光小学校から徒歩で約13分、東中学校からは約23分である。これら2校の「総合的な学習」の中に「地域の自然を知り、その環境を守る」のようなテーマを組み入れ、学習活動の一つとして「高田家のしだれ桜の落ち葉清掃」を取り入れることはできないものであろうか。また、地域の桜を守るというテーマで、中学校生のボランティア活動として、桜の木周辺の環境整備に携わってもらう可能性もあるのではないだろうか。

地域住民がボランティア組織を作り、桜の保全活動を行っている事例は、他の地域でも多く見受けられる。例えば、2006年11月から約25人（2018年10月現在）のボランティアにより行われている横浜市戸塚区の「桜セーバー活動」がある。これは、「樹勢の回復措置と維持管理」を目的に、地域を限定した柏尾川の桜並木が対象である⁽⁷⁾。愛知県岩倉市では、2007年から岩倉五条川桜並木保存会（会員数約130名）が、五条川の桜並木（約1,400本）を対象に施肥、整枝、ベッコウタケの駆除などを行っている。会員からの年会費、寄付金、募金を財源に活動を行っている⁽⁸⁾。ちなみに、岩倉市では、五条川桜並木維持管理に、市の予算を2014年に817万円、2015年に845万円を使っている⁽⁹⁾。

また、いろいろな大学で学生ボランティアの活動が盛んであり、これらの学生が実習やインターン制度を利用して、交代でこういった保全活動に参加することも可能である。江戸川大学は日光湯元で国立公園の清掃作業を行うための実習を行っていた。学生もこの実習に参加することで単位を取得でき、一方で国立公園の維持管理に大いに貢献したプログラムがあった。今でも大学にはボランティア実習を授業としてとれる科目があり、大学生も人手が必要な時期にその授業を利用して応

援に行くことができるのではないだろうか。

さらに、大学の単位取得の活動としてだけでなく、自主的なサークル活動として、色々な大学が各地のボランティア活動を実践している。江戸川大学には「学生保全ボランティアの会」や「霧ヶ峰愛好会」（現在は名称を変更）といった自然環境保全活動サークルがあり、国内外の自然保護活動に会員を派遣している。さらにいくつかの大学が集まって活動を続けているフィールドアシスタントネットワーク（FAN）という組織がある。この組織は単独の大学の学生達による活動ではなく、全国の学生が春休みや夏休みなどの長期の休暇の期間にグループで人手が必要としている現場に行き、1週間から10日間くらい現地に滞在して、地元が求める作業を行うのである。日光の場合にはおそらく日光市交流促進センターのような場所を拠点として、一グループ10人前後の応援隊が駆けつけてくれるのではないだろうか。こういった若い人たちのボランティア活動は彼らの社会貢献だけではなく、彼らも高田さんの桜を後世にまで残して行こうとするひたむきな努力や真剣な戦いから、彼らの将来の人生について大いに学ぶことであろう。

4-2 維持管理費用の調達について： クラウドファンディング

「一般社団法人 大学支援機構」は、「クラウドファンディング、クラウドソーシング、ネットショップ」を用いて、外部資金の調達を目指す仕組み「Otsucle（おつくる）」事業を展開している⁽¹⁰⁾。

徳島県立農林水産総合技術支援センター所属の中野昭雄氏と渡邊崇人氏が、「クビアカツヤカミキリの徳島県からの撲滅」を目指し、「日本のサクラ、モモを守る！ クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」を開始した。これは、Otsucleのクラウドファンディングを用いて資金集めを行う仕組みである⁽¹¹⁾。

第一次募集の目標金額は300万円であったが、実際は約556万円の支援金を集めることができた。支援者には、お礼の手紙が送られるほか、そ

の支援金額により、桃、藍染めグズ、クビアカツヤカミキリの標本、撲滅活動の報告会への招待などが提供される。

クラウドファンディングを用いた資金調達の他の事例としては、富士吉田市の新倉山浅間公園にある約650本の老樹のソメイヨシノの剪定、施肥、植え替えの資金集めを、吉田市がふるさと納税制度を活用した形で行ったことが挙げられる。2019年10月4日から開始し、11月13日で目標金額の1,500万円が集まっている⁽¹²⁾。

高田家のしだれ桜も含め、定期的な専門業者による維持管理費用の捻出方法の一つとして、クラウドファンディング、もしくはそれに類似するITを活用した資金調達制度の活用が考えられる。「日光の桜の保存」に賛同してくれる日本、そして世界中にいる人達から幅広く支援金を集めることが可能である。そのためには、ホームページを立ち上げるなどして、桜の木の維持管理にかかる費用（業者の見積もりなど）を項目別に示し、支援者に理解を得ることが必要となるであろう。但し、このタイプの資金集めは、安定的な財源の確保が難しいという課題を残している。

4-3 組織の法人化について

英国ナショナル・トラストは多くの貴族の館や土地を英国ナショナル・トラストに寄贈してもらい、その活用と保護活動を行っている。日本でも1968年と1992年にトラスト運動を推進する団体が設立され、現在でも公益財団法人日本ナショナルトラストと公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会として同じ運動を展開している。日本の場合は不動産や土地の譲渡に関して英国のような制度が十分整っているわけではないが、日本ナショナル・トラスト協会の会員の中には個人の土地を法人化して守っている事例がいくつもある。その代表的な例が、阿寒摩周国立公園内にある一般財団法人前田一步園財団である。この財団は広大な国立公園内の前田家所有の土地を前田光子さんが法人化することにより、その貴重な自然を守り続けている。その後は甥の前田三郎氏が法人の代表となり、その活動を続けてきたが、現在、前

田三郎氏は顧問となり、新井田利光氏が理事長となっている⁽¹³⁾。高田家もこういった形で法人化することで、高田家の桜を後世にまで保全し続けることが可能となるのではないだろうか。

4-4 マスメディアの活用

「日光の桜」の用語をウェブサイトで検索すると、かならず高田家のしだれ桜が出てくるほど、高田家の桜の美しさは知られている。しかし高田家のしだれ桜の写真はたくさんでてきても、この涙ぐましい影の努力の記事はどこにもみつからない。こういった現状を新聞社やテレビ局などに取材をしてもらい支援を募るという方法もあるのではないだろうか。英国ナショナル・トラストは「ひとりの1万ポンドより、1万人の1ポンドずつを」を理念に多くの人々に寄付をよびかけている⁽¹⁴⁾。日本の知床100平方メートル運動は朝日新聞の天声人語で紹介されて広まった。鎌倉の鶴岡八幡宮の裏山の保全運動も小説家の大佛次郎の随筆に掲載されて運動が広まった。こうして彼らは寄付金で保護すべき土地を買い上げたのである⁽¹⁶⁾。高田家のしだれ桜の保護についてもマスコミに取り上げられることによって、かならず桜の保護活動を支援したい人たちが現れるはずである。

4-5 観光客のマナーについて

一つには高田家の前に標識を作成して、この桜の由来についての解説板を作成するとともにマナーを呼びかける方法もある。聞き取り調査を実施した時には、日光を熟知している地元のインタープリターにガイドをお願いし、さらに高田さんから直接、前述の説明をいただき、理解を深めることができたが、「桜回遊」のパンフレットだけでは残念ながらそれぞれの桜の詳しい歴史について知ることはできない⁽¹⁶⁾。観光客は見た目の美しさのみに興じて、それらの桜の文化的価値まで理解できるようには思えない。又、高田さんの聞き取り調査で、著者も高田家の桜がどれだけ手をかけてこの美しさを保たせているのかを理解し、単なる美しさだけではなく、その美の背景の

隠された努力に敬意を表した程である。そうして再度桜を眺めてみると、表面の美しさの奥に秘められた育てた人と育てられた桜の一体化した物語を感じるのである。したがって、これらの老樹の桜をさらに訪れる人々に大事にしてもらうためには、時を経て存在する桜の時間と空間の郷土史についても何らかの方法で解説を加えて欲しいものである。

4-6 景観の整備

桜の風格にふさわしいまちづくりは個人の方だけでは難しい。コミュニティの協力、市町村の行政支援、そして観光客の理解といった幾重もの力を借りて初めて美しい街を形成することが可能である。日本には重要伝統的建造物群保存地区の指定制度があり、その保存地区の美観を維持するために、地区内に居住する人々は様々な制限が課されている。そしてそれらの制限に対する行政の補助や支援事業も展開されている。そうして一体化した伝統的なまちづくりが維持されるのである。高田家も一軒だけでは頑張りきれものではないのでこういった法的仕組みづくりについても、コミュニティの人々と一緒に今後は検討していくべき課題であろう。

おわりに

「日光桜回遊」のしだれ桜やその他の桜が長い年月、数々の災害にもめげずに風雪に耐え抜いた理由が「高田家のしだれ桜」の事例を通して理解することができた。しかし、「日光桜回遊」にリストされている他の桜の状態はどうであろうか。

今回の春、秋の調査で27カ所の桜のうち21カ所の桜についてそれぞれの樹木の状態を調べて回ったが、その中で樹齢推定450年～500年と言われている「岸野家のしだれ桜」は、木が弱った時には業者によって手当がされているとのことだった。その他の桜の木については、比較的他の古木に対して樹齢が若い吉新家の桜などは枝の剪定が丁寧にされているようであったが、龍蔵寺墓地の桜はシダや苔やキノコの類の植物が幹から生

えており、推定樹齢が200年を超えと思われる個人所有の桜にはつたが樹木を覆っており、維持管理が十分でない印象を受けた（写真20～写真26参照）。こういった根本的な問題は、一にも二にもこれらの桜の維持管理費用が十分確保できてい

ないことからでてきている問題である。

そこでこれらの桜がこれからも健全な形で後世まで生長し、更には「日光桜回遊」の観光資源として貢献していける方法についていくつかの提案をしてみたい。



写真 20 龍蔵寺墓地の桜
(2019年11月5日 著者撮影)



写真 21 龍蔵寺墓地の桜
(2019年11月5日 著者撮影)
ナラタケモドキ子実体が寄生している



写真 22 みゆき公園の桜
(2019年11月5日 著者撮影)



写真 23 みゆき公園の桜
(2019年11月5日 著者撮影)



写真 24 みゆき公園の桜
(2019年11月5日 著者撮影)



写真 25 東武日光駅の桜
(2019年11月5日 著者撮影)



写真 26 東武日光駅の桜
(2019年11月5日 著者撮影)

1. 「日光桜遊会」をナショナル・トラスト団体として登録する

「高田家のしだれ桜」を単体で一般財団法人前田一歩園財団のように組織化して保全することも一つの方法であるが、その他の「日光桜回遊」にリストされている多くの桜も維持管理のための財源の確保が急務である。そのためには観光推進のための「日光桜遊会」の組織を、観光推進団体から「桜の保全も含むナショナル・トラスト団体」へ組織の模様替えをしてはどうだろうか。現在日本ナショナル・トラスト協会には、北海道の斜里町の知床や、和歌山の天神崎のようにある一定の地域の土地を取得して保全する団体もあるが、一方ではトンボや鳥やブナや野草といった動植物の保全活動をしている団体も多くある⁽¹⁷⁾。したがって、観光客の誘致のためにパンフレットはそのまま観光客をひきつける「日光桜回遊」のキャッチコピーでもよいと思うが、主催を「日光桜遊会」から「(仮称)日光の桜を残す会」とか、桜を保護するナショナル・トラスト団体へ模様替えしてみてもいいのではないだろうか。また、現在この会に参加をしている加盟店などの抵抗があるので

あれば、とりあえずは、観光業に携わっていない桜の個人所有者が集まり、桜遊会と並行して桜の保全を推進する任意団体を立ち上げ、主催者の欄にその団体名を連ねても良いのではないだろうか。今回の調査では丁度、日光の観光シーズンだったため、桜遊会の担当者の方にインタビューをすることができなかったが、その方は日光青年会議所の若きリーダーでもあり、おそらく観光推進と桜の保全活動を両輪として頑張っているのではないだろうか。

こういった非営利の保護団体になれば、寄付も募りやすくなるし、また県外、市外の日光の桜に魅せられた人々を会員として取り込むことも可能である。又、会員と一緒に桜の清掃作業や、維持管理のためのボランティアプログラムも作ることが可能である。さらには日本ナショナル・トラスト協会の会員に加盟することで、毎年、全国大会で日光の桜の実情を訴えることもできるし、また観光のためのPRも発信することができる。日本のナショナル・トラストは英国の中央集権型と違って様々なタイプの団体から構成されており、中には市町村が主体になって活動を行っているところもある。日光市が市の文化財を含む市内の貴重な多くの自然遺産、文化遺産のためにイニシアティブを取ってこのようなナショナル・トラストを立ち上げることもありうるのではないだろうか。

また、このような保護団体を立ち上げれば、それにとまなう様々な桜を使ったデザイングッズの製造、販売も可能となり、それらの収益を桜の維持管理の費用へとあてることができるようになる。一個人ではそういったグッズの製造販売は難しくとも、27カ所の様々な桜の写真を使って、マグネット、キーホルダー、ファイル等を販売すれば、きっと観光客の楽しみも増えることであろう。

2. 「日光桜回遊」のガイドや インタープリターの養成

日光桜回遊のパンフレットには桜の推定樹齢だ

とか、桜の写真と種類等の解説が多少は入っているが、年代を経て今なお凛として存在し続ける多くの桜の本当の歴史を理解することはできない。この桜が植えられたと思われる時期の当時の日光の人々の生活、日光と徳川家とのかかわり、さらには日光国立公園の成立や世界遺産に指定された経緯など、日光にはたくさんの知りたくなる歴史が詰まっている。そこで地元のガイド組合やインタープリターを提供する団体等とタイアップして、こういう案内ができるガイドや解説員を養成し、そのガイド料の一部を桜の管理費用に回すこともできるのではないだろうか。あるいは桜の古木を有する個人所有者たちで集まり、桜や日光の歴史を知る専門家達を呼んで研究会やミニワークショップを開催するなどして、独自のガイドブックを作成して販売することも可能ではないか。

3. コミュニティの輪を広げる活動の推進

桜を保全していくためには地域の人々が一緒になって活動の輪を広げていく必要がある。そのためには桜をテーマにしたいろいろな活動を地元の人々で行って行くことが大切である。「日光の桜回遊」の桜は外からくる観光客だけのものではない。地元の人達の桜をこよなく愛する姿があつてこそ、更なる桜の価値が高まるのである。それでは地元の人たちが一体になって桜への理解を深めるにはどうすればよいのだろうか。それは桜の所有者たちが、自分の桜だけに関心を持つのではなく、他の「桜回遊」の桜と一緒に視察することで桜を健全に維持管理していくための情報交換をすることである。又、桜の古木を所有していない住民に対しても、例えば小杉放菴記念日光美術館で桜をテーマにした有名絵画を集めて特別展を開催することや、桜をテーマにした音楽コンサートを開くことで、地域住民だけでなく、多くの観光客も桜を見るだけでなく更なる楽しみを体験できるのではないだろうか。

表2 日光市への観光客入込数と宿泊者の推移

単位：人

年	入込数		宿泊者数	
	日光市	日光地域	日光市	日光地域
2014	10,745,046	6,187,269	3,264,299 (60,116)	1,246,274 (40,768)
2015	11,957,395	6,901,286	3,243,396 (70,295)	1,241,720 (44,659)
2016	11,391,376	6,045,291	3,521,034 (92,448)	1,554,278 (54,916)
2017	12,098,713	6,394,443	3,440,959 (101,704)	1,270,743 (65,819)

注：() 内は、外国人数を示す。

出典：「平成29年版 日光市統計書」より作成

4. イベントのさらなる工夫と 桜の文化を高める

桜をテーマとした音楽、絵画、和歌、小説等が数多くあるが、日光の桜に関係するものをきちんと収集して、「日光桜回遊」のイベントの時にそれらの情報を提供することで、桜見学の時には更なる関心が高まる。さらに新しい芸術作品を作っていくことも大切である。例えば、北海道の富良野のラベンダー畑も一枚の鉄道会社のポスターでブレイクして有名になった。また、有名な画家が描いた桜や場所、映画の舞台になった場所、歌のテーマとなった桜や場所は当然観光客の興味の的となる。有名な画家に依頼して「高田家のしだれ桜」を描いてもらったり、有名な写真家に金剛桜の四季の写真を撮影してもらい、その写真展を開催する等で、芸術家の作品の価値とともにそのモデルとなった日光の桜にも人々の関心は集まる。「日光桜回遊」のイベントはまだ始まって7年目なので、これからこのような企画が桜遊会で行われるのかもしれないが、付加価値をつけて日光の桜を紹介していくというのも一つの方法ではないだろうか。

5. 観光税・環境税の導入について

近年、観光地では各種の観光税、環境税、アメニティ税等を利用して、観光地の資源保護の努力がなされているが、観光税を導入することによ

て、桜の維持管理費用の財源を多少賄えるのではないだろうか。環境省では富士山保全協力金の制度を導入して富士山の世界遺産の環境保全と登山者の安全対策費用にあてている⁽¹⁸⁾。この制度は2013年に10日間の社会実験を行い、翌年から本格的に導入し、基金化して運用を始めた。2013年の社会実験の年は山梨県と静岡県の両方を合わせて約3,413万円が集まったが、2014年には両県で約1億5,837万円、2015年は山梨県だけで約7,104万円が集まった⁽¹⁹⁾。富士山の場合には入山料ということで、登山する入り口で徴収するというわかりやすい方法が取れるのであるが、日光の場合には工夫が必要である。なぜなら、明治から続いていた二社一寺の共通拝観券が廃止され、1,000円の共通拝観券から現在では東照宮が1,300円、二荒山神社が神苑入園料200円、神橋拝観料300円、輪王寺は900円となり⁽²⁰⁾、これだけでも観光客のイメージダウンなのに、さらに観光税等を導入するとなると、どこでどのように徴収できるのが問題である。ましてや、日光市内に点在する桜を保護するための大義名分をどのようにすれば徴収可能となるのか。そこでよく使われる方法が宿泊料金に上乗せする方法や駐車料金に上乗せする方法である。

まずは日光の観光客の入込数と宿泊者数の推移についてみてみよう。表2は、日光市への観光客入込数と宿泊者数の推移を表したものである。

これによると、2017年に日光市（今市、藤原、足尾、栗山を含む）を訪れた観光客入込数は約1,210万人で、その内、「日光桜回遊」が行われる

中心部の日光地域には約 639 万人が訪れており、日光市全体の約 53% を占めている。日光市への宿泊者数は約 344 万人で、そのうち日光地域に宿泊した人は約 127 万人、日光市全体の約 34% にあたる。観光客入込数と比較すると、日光地域に宿泊した観光客は 2 割にも満たない。これは、都心から約 2 時間という便利な立地条件により、日帰りが可能であることが要因の一つではないかと推測される。それに対し、外国人観光客の数は年々増加しており、日光市を訪れた外国人観光客のほぼ半数以上が日光地域に宿泊をしているという統計結果である。日光市はすでにこの傾向を把握し、“国際観光文化都市”と銘打って、日光市観光振興計画も改定した⁽²¹⁾。

日光市が 18 歳以上の旅行者に行ったアンケートの調査結果によると、日光市内での一人当たりの支出額（交通、飲食、お土産、拝観・入場料など）は、平均で日帰り客が 9,570 円に対して、宿泊客は 34,086 円という結果が出ている⁽²²⁾。宿泊費 18,814 円を除くと、上記の項目に 15,272 円、宿泊客が使っている。日帰りの観光客にも出来るだけ長く滞在してもらい、宿泊日数が 1 泊の宿泊客（全体の約 79%）に連泊してもらう戦略が必要である。こういったデータから、日光地域の活性化の鍵は、宿泊してくれる観光客、特に外国人観光客をいかに増やすかという仕組みづくりが大切である。それによって、観光客が宿泊する場合に支払う入湯料の他に環境税とかアメニティ税を上乗せすることが可能となる。しかし、こういった観光客からの税の徴収には納得のいく方法が必要で、まずは宿泊施設に寄付金の箱を置いたり、宿泊料支払い時に協力金として任意での徴収という方法もある。徐々にこういった倫理的な協力金が定着してくれば、自動的に徴収することも可能となっていくであろう。

海外の事例を調べてみると、エクアドルのガラパゴス諸島では上陸すると 100 ドルの入島税が徴収されるし、チリのイースター島でも 80 ドルの入島税が徴収される。これらの税はかなり高額であるが、島の入り口の大きな看板にこの税金の使途内訳が細かく提示されており、訪れる観光客は

島の環境保全であるとの理由で納得させられる。

さらに東武鉄道や東武バス、JR といった会社の各種フリーパスの料金に上乗せしてもらおうと言う方法はどうか。東武鉄道の日光フリーパス等はかなりお得な値段で購入することができる。それに 100 円位の額を上乗せしてもらい、その額を「桜遊会」や「(仮称) 日光の桜を残す会」等に寄付をしてもらおう。現在の企業では CSR（企業の社会的責任）は当たり前の事業であり、東武鉄道やその他の企業も喜んで協力を申しでてくれるにちがいない。又、東武鉄道でも桜の写真などを使用することで、魅力的なフリーパスの切符を作成し、鉄道マニアのコレクターアイテムに仕上げることも可能となるのではないだろうか。

6. 制限ツーリズムの勧め

日光市では東日本大震災で落ち込んだ観光客数が回復してきているものの、基盤産業である観光業の発展のために、日光を訪れる人を増やすことに重点を置いた政策を展開している。日光市観光振興計画の中では、「観光推進体制の充実」、「魅力ある観光地づくりの推進」、「観光客誘客活動の推進」、「外国人観光客の誘客の推進」、「観光施設の充実」などを挙げている⁽²³⁾。日光市が観光事業者へ行った「日光市の観光」についての聞き取り調査の結果では、日帰り観光客が多いことに加え、「夜になると開いているレストランや食堂などが少ない」、「夜、遊びたいと思うコンテンツのある娯楽施設がない」などが指摘されている。「宿泊滞在観光」になっておらず、夜になると観光客も含めて人がいなくなるとの意見も出ている⁽²⁴⁾。

観光客の誘致では、「名物が少ない」、「現在の観光客が求めている食事、これを食べに行こうという名物が日光市にはない」、「地元の文化や資源を活かしていない」、「日光東照宮だけ見て帰ってしまうので、地元にお金が落ちない」などが問題とされている。駐車場待ちの車による交通渋滞を解消すること、2 次交通なども含めた外国人観光客受け入れに対する整備の必要性も意見として出

ている⁽²⁵⁾。

しかし一方、日光は各地で問題化しているインバウンドも含めた観光客の増加による観光公害（オーバーツーリズム）にも目を向ける必要がある⁽²⁶⁾。例えば、京都市や鎌倉市の場合、観光客による自宅の庭への侵入、草花の無断採取、騒音や交通渋滞などが挙げられている⁽²⁷⁾。2014年の人口1人当たりの観光客入込数を比較すると、鎌倉市が127人、京都市は39人、日光市は126人である⁽²⁸⁾。2015年では、日光市の人口減少と市への観光客入込数の増加で、日光市は143人、日光地域は118人となった⁽²⁹⁾。鎌倉市や日光市では、人口の100倍の観光客が訪れているが、多くは日帰り、また特定の時期に集中して訪れる傾向がある。両者とも寺院などの観光スポットがコンパクトに纏まっており、日帰り訪れることが可能な点が共通している。

国土交通省の報告書によると、古くから観光地として栄えてきた日光では観光客によりもたらされる問題はさほどないという。ゴールデンウィークや紅葉の時期には道路渋滞が発生するが、京都市や鎌倉市のような慢性的なものではない。ごみのポイ捨てなどの問題も、日光市ではごみ箱を設置していないが、飲食土産店などがごみ箱を設置しており、問題になっていないという⁽³⁰⁾。

日光を訪れる観光客の増加により、地域住民の雇用機会が増え、地元企業の成長につながり、住民の所得が向上する。その結果、日光市の税収入が増え、それが市の「観光資源の保全や住環境の改善」等に使われる、というのは観光ビジネスの世界で良く言われる方程式である⁽³¹⁾。しかし、観光の推進には光と影がある。観光客の増加は地元を潤す経済効果があるが、一方でその貴重な観光資源の質を落としかねない危険な要素もはらんでいる。むしろ、「保全は開発である」という言葉を信じて、節度ある観光客の誘致、そして保全活動を推進することによる収入増加の模索、そして何よりも日光を訪れる人たちの期待は、騒音と排気ガスと人々で混みあう観光地ではなく、長い歴史と文化に育まれてきた伝統あるたたずまいの門前町の美観であり、その環境でこそ、古木の桜

がさらに際立った美しさを発揮することを常に肝に銘じることである。日本のナショナル・トラスト運動の先駆者となった大佛次郎は、彼のの本の中で、こういう言葉を残しており、これこそがこれからの「日光桜回遊」のイベントを開催する桜遊会が目指す活動ではないだろうか。

「過去に対する郷愁や未練によるものではなく、将来の日本人の美意識と品位のためである」⁽³²⁾

《注》

- (1) 『日光の春楽しんで、「桜回遊」4月5日開幕 過去最大の74店協賛』、2019年4月1日、下野新聞「SOON」ニュースのHP。
- (2) 日光ユネスコ協会会長 高田雄康さんへの聞き取り調査、2019年4月16日、11月5日。
- (3) 日光市史編纂委員会編、「日光市史 中巻」、日光市、1979年、pp.716-717。
- (4) 「サクラ（桜）の歴史」、歴史まとめ net. のHP。
<https://rekishi-memo.net/plant/sakura.html>
- (5) 「シダレザクラ *Cerasus spachiana* 'Itosakura' Siebold」、広島大学デジタル博物館のHP。
https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~main/index.php/シダレザクラ_広島大学櫻曼荼羅
- (6) 小島道裕、「――桜から考える歴史――」、第204回くらしの植物苑観察会、2016年3月26日、国立歴史民俗博物館のHP、pp.1-2。
<https://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/column/2016/354.pdf>
- (7) 「桜セーバー活動」、横浜市のHP。
https://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/kurashi/machizukuri_kankyo/machizukuri/totsuka_machi/sakuran-amiki/sakurasaver.html
- (8) 「守ろう。岩倉市民が誇る、桜風景」、ふるりのHP。
https://fururi.jp/city/23_aichi/2289_iwakura/project/0002.html、『美しき五条川の桜を後世に残していくために「岩倉五条川桜並木保存会」』、くれよん、2016年3月号 Vol.18。
- (9) 南端隆佳、「観光資源の持続可能な発展～市民活動で守る五条川の桜～」、第28期 全国地域リーダー養成塾 修了レポート、一般財団法人地域活性化センター、2016年、p.2。
- (10) 「おつくるについて」、一般社団法人 大学支援機構のHP。
<https://universityhub.or.jp/otsucle.html>
- (11) 「日本のサクラ、モモを守る！ クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」、OtsucleのHP。
<https://otsucle.jp/cf/project/save-sakura.html>
- (12) 「忠霊塔の桜守ろう 富士山の眺望スポット樹勢衰え 回復費用ネットで募る」、2019年10月27日、富士山 Net のHP。
<https://www.fujisan-net>

- jp/post_topics/3008320, 「忠霊塔桜保護へ1500万円集まる」, 2019年11月20日, ふじのーとのHP. https://www.yamanashibank.co.jp/fuji_note/yamanashi/post_1319.html
- (13) 「前田一歩園財団について」, 一般財団法人前田一歩園財団のHP. <https://www.ippen.or.jp/about/charter.html>
- (14) 「一万人の一ポンド」, キーワード辞典, 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会のHP. http://www.ntrust.or.jp/about_ntrust/leuwprd.html
- (15) 「破壊される自然」, キーワード辞典。
- (16) 日光ユネスコ協会会長 高田雄康さんへの聞き取り調査, 2019年4月16日。
- (17) 「知床アピール」, キーワード辞典。
- (18) 「その他の環境省関連税制に関する国内外の取り組み」, 平成29年7月, 環境省のHP. <https://www.env.go.jp>
- (19) 同上。
- (20) 「迷わず行ける日光早わかり術」, 電車の旅, 東武鉄道のHP. <http://tabi.tobu.co.jp/what/nikko-guide/>
- (21) 「日光市観光振興計画 Experience The World of NIKKO」, 平成30年3月, 日光市, pp.1-9。
- (22) 同上。
- (23) 同上, p.10。
- (24) 同上, pp.26-27。
- (25) 「第2次日光ブランド戦略プラン 平成28年～平成32年」, 日光市, 平成28年3月, p.21。
- (26) 高坂晶子, 「求められる観光公害(オーバーツーリズム)への対応——持続可能な観光立国に向けて——」, JRI レビュー, Vol.6, No.67, 2019年, p.100。
- (27) 同上, p.113。
- (28) 「第3期鎌倉基本計画」, 平成28年3月, 鎌倉市, p.12。
- (29) 「平成29年版 日光市統計書」, 日光市, pp.8-9, p.55。
- (30) 「環境と観光の両立のための持続可能な観光客受入手法に関する調査業務——報告書——」, 国土交通省総合政策局環境政策課, 平成31年3月, pp.71-73。
- (31) 同上, p.3。
- (32) 「破壊される自然」, キーワード辞典。
- 省総合政策局環境政策課, 平成31年3月。
- キーワード辞典, 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会のHP. http://www.ntrust.or.jp/about_ntrust/leuwprd.html
- 小島道裕, 「——桜から考える歴史——」, 第204回くらしの植物苑観察会, 2016年3月26日, 国立歴史民俗博物館のHP. <https://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/column/2016/354.pdf>
- 「桜セーバー活動」, 横浜市のHP. https://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/kurashi/machizukuri_kankyo/machizukuri/totsuka_machi/sakuramiki/sakurasaver.html
- 「サクラ(桜)の歴史」, 歴史まとめ net. のHP. <https://rekishi-memo.net/plant/sakura.html>
- 「シダレザクラ *Cerasus spachiana* 'Itosakura' Siebold」, 広島大学デジタル博物館のHP. https://www.digital-museum.hiroshima-u.ac.jp/~main/index.php/シダレザクラ_広島大学櫻曼荼羅
- 「その他の環境省関連税制に関する国内外の取り組み」, 平成29年7月, 環境省のHP. <https://www.env.go.jp>
- 高坂晶子, 「求められる観光公害(オーバーツーリズム)への対応——持続可能な観光立国に向けて——」, JRI レビュー, Vol.6, No.67, 2019年。
- 「第3期鎌倉基本計画」, 平成28年3月, 鎌倉市。
- 「第2次日光ブランド戦略プラン 平成28年～平成32年」, 日光市, 平成28年3月。
- 「忠霊塔桜保護へ1500万円集まる」, 2019年11月20日, ふじのーとのHP. https://www.yamanashibank.co.jp/fuji_note/yamanashi/post_1319.html
- 「忠霊塔の桜守ろう 富士山の眺望スポット樹勢衰え回復費用ネットで募る」, 2019年10月27日, 富士山NetのHP. https://www.fujisan-net.jp/post_topics/3008320
- 「日光市観光振興計画 Experience The World of NIKKO」, 平成30年3月, 日光市。
- 日光市史編纂委員会編, 「日光市史 中巻」, 日光市, 1979年。
- 『日光の春楽しんで「桜回遊」4月5日開幕 過去最大の74店協賛』, 2019年4月1日, 下野新聞「SOON」ニュースのHP。
- 日光ユネスコ協会会長 高田雄康さんへの聞き取り調査, 2019年4月16日, 11月5日。
- 「日本のサクラ, モモを守る! クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」, OtsucleのHP. <https://otsucle.jp/cf/project/save-sakura.html>
- 「破壊される自然」, キーワード辞典, 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会のHP. http://www.ntrust.or.jp/about_ntrust/leuwprd.html
- 「平成29年版 日光市統計書」, 日光市。
- 「前田一歩園財団について」, 一般財団法人前田一歩園財団のHP. <https://www.ippen.or.jp/about/charter.html>

参考文献

- 『美しき五条川の桜を後世に残していくために「岩倉五条川桜並木保存会」』, くれよん, 2016年3月号 Vol.18。
- 「おつくるについて」, 一般財団法人 大学支援機構のHP. <https://universityhub.or.jp/otsucle.html>
- 「環境と観光の両立のための持続可能な観光客受入手法に関する調査業務——報告書——」, 国土交通

「守ろう。岩倉市民が誇る、桜風景」, ふるりのHP。
[https://fururi.jp/city/23_aichi/2289_iwakura/
project/0002.html](https://fururi.jp/city/23_aichi/2289_iwakura/project/0002.html)
「迷わず行ける日光早わかり術」, 電車の旅, 東武鉄道
のHP。 <http://tabi.tobu.co.jp/what/nikko-guide/>

南端隆佳, 「観光資源の持続可能な発展～市民活動で
守る五条川の桜～」, 第28期 全国地域リーダー
養成塾 修了レポート, 一般財団法人地域活性化
センター, 2016年。

